

# 知事記者会見の概要

日 時：令和4年7月11日(月) 14:00～14:37

場 所：502会議室

出席記者：10名、テレビカメラ4台

## 1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、代表・フリー質問に知事が答えて閉会した。

## 2 質疑応答の項目

### 代表質問

- (1) 参議院議員選挙について

### フリー質問

- (1) 新型コロナウイルス感染症への対応について
- (2) 宮城県川崎町に計画されている風力発電事業への対応について
- (3) 代表質問に関連して
- (4) 政務活動中の警備体制について
- (5) 参議院議員選挙の投票率について

<幹事社：朝日・荘内・NHK>

## ☆報告事項

### 知事

皆様、こんにちは。まずもってですね、安倍元首相の御逝去について申し上げたいと思います。

安倍元首相の突然の訃報に接し、誠に残念に思っております。大きな衝撃を受けているところです。この度の銃撃というのはあまりにも卑劣な蛮行であって、いかなる理由があったとしても決して許されるものではないというふうに思っております。

安倍元首相は力強いリーダーシップのもと、経済・雇用対策をはじめ、諸外国との外交や地方創生、新型コロナへの対応などに全力で取り組んでいただきました。

安倍元首相の偉業遺徳を称えますとともに、今はただ御冥福を心からお祈り申し上げます。

次は、新型コロナについて申し上げます。全国では、新規感染者数が増加傾向に転じております。先週来、6つの県で過去最多を更新するなど、BA.5への置き換わりの影響などにより、急速に感染が再拡大しております。過去最大になっている県というのは、例えば、島根、鳥取、愛媛、佐賀、大分、熊本があげられます。

本県では、新規感染者数が7月の5日から、10日まで6日間連続で3桁となっております。前の週の同じ曜日を上回っているところです。また、クラスターも今月6日以降は、連日のように確認されております。

新たな系統であるオミクロン BA.5 は、直近の7月8日に公表したサンプル検査では、約10%となっておりますが、今後さらに置き換わりが進んだ場合、感染者がさらに増加する可能性があります。引き続き警戒しながら、隣県などの推移も含め、危機感をもって、感染状況を注視しているところです。

これから三連休や夏休みの時期を迎えます。人と接触する機会が多くなることが予想されますので、県民の皆様には、引き続き、熱中症に注意しながら、場面や状況に応じた不織布マスクの正しい着用や、ゼロ密、換気の励行、こまめな手洗いなど、基本的な感染防止対策の徹底を改めてお願い申し上げます。

また、今週末からの三連休ですが、旅行や帰省などで県外に出かける方も多いかと思われまます。県外と往来する際にはですね、事前・事後に無料のPCR等検査を活用するなど、「うつらない」、「うつさない」行動の徹底に努めていただきたいと思います。

加えまして、感染防止や重症化防止の要であるワクチン接種につきましては、3回目の接種が全体で70.6%となり、全国第2位でございます。引き続き順調に進んでいるところです。また、60歳以上の方や基礎疾患をお持ちの方を対象とする4回目接種も各市町村で順次始まっております。いずれも希望される皆様にはできるだけ早く接種を受けていただくようお願いいたします。

それから3つ目ですけれども、「山の日」全国大会についてです。第6回「山の日」全国大会やまがた2022開催まで「あと30日」となりました。今年1月から県内各地をリレーした「山鐘（さんしょう）」と、「山の日帽」が、明日12日に県庁に戻ってきます。

「山鐘」とは、大会の開幕と閉幕を告げる時に鳴らす鐘でございます。「山の日帽」は、次期開催地に大会を引き継ぐバトンの役割を担っています。

明日から大会開催まで、こちらにありますカウントダウンボードとともに県庁1階ロビーに展示をしまして、大会本番を迎えることとなります。

なお、明日12日午前10時から県庁ロビーで、「山鐘」を設置し鐘を鳴らすデモンストラーションを行いますので、取材についてよろしく願いいたします。

8月10日の蔵王記念登山、そして11日からのオプションツアーにつきましては、たくさんのお応募をいただき募集を締め切らせていただきました。ですが、11日のやまぎん県民ホールでの記念式典・トークイベントにつきましては、まだ空きがありますので、7月27日まで参加者の募集を行っております。

また、外の広場で開催される、ご当地グルメや展示・体験コーナーなどを内容とした歓迎フェスティバルは、御来場が自由でありますので、多くの皆様に足を運んでいただきたいと思っております。私からは以上です。

#### ☆代表質問

記者

NHKの金敷です。よろしく願いいたします。

まずですね、昨日の参議院選挙について伺わせてください。昨日の参議院選挙、まず全国的には、自民党が63議席獲得ということで圧勝という選挙になりました。山形県では、現職の国民民主党の舟山さんが当選ということで決まりました。この選挙結果のですね、まず受け止めに伺わせていただきたいのと、今後ですね、当選した舟山さんとの連携をどのようにお考えかを併せてお伺いさせていただきます。

知事

はい、わかりました。まずもって、この度の参議院議員選挙におきまして、山形選挙区で当選された舟山康江さんに心からお祝いを申し上げます。選挙結果についての受け止めというお尋ねでありますけれども、県民の皆様の御判断として選出されたというふうに思っております。また、当選者との連携ということですが、県選出国會議員の皆様には、これまでも県政課題の解決や県政発展のために、様々な場面でお力添えをいただいております。現在、新型コロナ対策や地域経済の再生、原油・原材料価格高騰への対応、そして地方創生の推進、また防災・減災対策、脱炭素社会の実現や子育て支援の充実など、様々な課題が山積しております。県選出国會議員の皆様は、県民から選ばれた県民の代表者でありますので、今回当選された舟山さんも含め、県民の声、地方の声というのをしっかりと中央に届

ける太いパイプ役を担っていただくとともに、様々な場面でお力添えをいただきながら、連携を密にして、県政発展のために取り組んでいきたいと考えているところでございます。

記者

ありがとうございます。併せてになりますが、知事は7月2日に舟山さんの事務所を訪問されて激励をされていたと思います。これについてですね、一部自民党関係者からの反発的なものもちょっと耳にしたもので、今後の自民党との連携についてどのようにお考えかお伺いさせていただきます。

知事

はい。確かに私は、熟慮を重ねた結果でありますけれども、7月2日に事務所を訪問し、舟山さんを激励させていただきました。舟山さんには、先の知事選でも御支援をいただいておりますので、これまで一貫してきた「恩返し」という信条のもと、対応させていただいたところでございます。

一方で私は、県行政のトップとして、県民の皆様の負託に応えるべく、県政運営にあたりましては公正中立の立場であり、これからもその姿勢は揺らぐことはありません。自民党との関係や連携ということでもありますけれども、これまでも米沢トンネル（仮称）の早期事業化に向けて、遠藤利明先生と連携した取組みなども行ってきているところでございます。

今後とも、県民の皆様の命と暮らしを守るため、そして県勢発展のため、様々な場面で協力し合うなど、しっかりと連携をしながら県政運営に取り組んでいきたいというふうに思っているところです。

記者

ありがとうございます。すいません、最初の質問の中でですね、ちょっと私ちゃんと聞いていなかったかもしれないんですけど、全国的に自民党が圧勝になった、この選挙結果というのはどのように受け止めていらっしゃるのでしょうか。

知事

はい、もう端的に言えば、国民の皆さんの御判断というふうに受け止めております。

☆フリー質問

記者

ありがとうございます。代表質問としてはここまでなんですが、NHKから個別に1点だけ、コロナに関して質問させていただきます。先ほど知事からもお話がありましたけれども、先週くらいまでは2桁くらいだったのが、もう先週の中盤くらいからですね、3桁になって、今日はかろうじて2桁ですが、知事はこれをどういうふうに見ているのか、他

の県では、もう第7波に入りかけていると発言されている知事さんもいらっしゃいました。山形では第6波は収束したともまだ宣言されていない状況で、また増え始めているという状況なので、知事の現在のお考えというか受け止めに伺わせてください。

知事

はい、分かりました。

全国的には7月に入り、新規感染者数が過去最多を更新する県が複数出ております。西日本を中心に大きな増加となっている他、大都市部でも再拡大の傾向が見られます。本県では感染者数が3桁の日が7月5日から10日まで6日間続きました。それから感染力がBA.2の1.2倍程度強いと言われているオミクロンBA.5への置き換わりが今後も進むことも予想されます。更なる感染拡大が懸念されるところでございます。

本県がいわゆる第7波に入ったか否かにつきまして、医療専門家の先生方にもお聞きをしたところであります。そうしましたらば、まずですね、「第7波と捉えるには、感染者数が顕著な上昇傾向に転じていることが必要だが、現時点では断言できない」といった御意見や、「第6波が再び拡大しているとも言えるので、現時点では明確に第7波到来と判断することは難しい」といった御意見を頂戴しているところでございます。

そうしたことから私としましては、今後の新規感染者数の動き、そしてBA.5への置き換わり状況を注視していく必要があると考えております。いずれにしましても、最大限の警戒をしながら引き続き感染防止そして経済回復、この2つの両立にしっかりと取り組んでまいりたいというふうに考えているところでございます。

記者

ありがとうございます。

記者

共同通信、阪口です。お世話になります。

今朝というか午前中ですね、山形市長のほうからですね、関西電力の川崎町の風力発電について要望、意見書が提出されたと思います。反対という形の意見書だったと思うのですが、その受け止めにですね、率直に、あの時もちょっと述べられていたと思いますが、もう一度お願いできますでしょうか。

知事

はい、分かりました。今記者さんがおっしゃったようにですね、本日の午前中に山形市長さんが見えられまして、御意見をおっしゃっていかれました。関西電力が宮城県川崎町において計画している風力発電事業につきまして、本日、山形市の佐藤市長から環境影響評価法に基づく計画段階環境配慮書に対する御意見を頂戴しました。

一方、専門家からの御意見としまして、山形県環境影響評価審査会からの御意見を6日付けで受けております。

これから山形市長さんや専門家からの御意見を踏まえ、今後私からの意見を関西電力に伝えたいというふうに考えているところです。

山形市長さんの御意見に対する受け止めということですが、山形市内でも蔵王温泉の関係者を中心に本県を代表する観光地であります、蔵王の景観への影響を心配する声が相当あったと承知をしておりますので、佐藤市長としてもこうした地元からの御意見というものを十分に踏まえて意見書をまとめられたものというふうに思いました。

私としましては、市民の代表である佐藤市長さんからお聞きした御意見、そして専門家の御意見を踏まえて、県としての意見を伝えていきたいというふうに思っています。

内容としてはそうですね、蔵王というところは信仰の山であって、歴史もあるというそういう場所であって、尚且つ山形県内の一大観光地、代表する観光地であるということでもあります。本当に大切な観光地であり、蔵王の観光の影響というのは、本当にたくさんの多くの業界のたくさんの方々に響くものであります。蔵王の観光で生業（なりわい）を続けている方々がたくさんおられますので、本当に重要な所だなというふうに、私も常々以前からそういうふうに考えてきました。ですから地元の御意見をしっかりと受け止めて、県としての意見を申し述べていきたいというふうに思っています。

記者

先日、今月の下旬頃に最終的な意見を取りまとめたいと確かおっしゃっていたような気がしたのですが、そのスケジュール感に変わりはないでしょうか。

知事

ええ。スケジュール感は変わったとは聞いておりませんので、そのスケジュールだと思えます。

記者

分かりました。すいません、先ほどの参院選の件で1点伺いたいと思います。今までの自民党との連携という面です、腐心されてきた面があると思うのですが、陣営の方々は知事からの御支援ということをかなり強調されて、やっぱりちょっと、また先鋭化してしまったのかなというふうに思ったりはするのですが、知事自身はその点についてはどのようにお考えでいらっしゃるのか、何か対立が深まったというふうにちょっと肌感覚で感じていらっしゃるのか、その辺率直に伺えますでしょうか。

知事

そうですね。私も本当に熟慮に熟慮を重ねたところでありまして、それで、やはり恩返

しというものは一度はしなければというような思いで事務所訪問をさせていただきました。それをもってですね、どういうふうを受け止められたのか本当に心配なところではありますけれども、ただやはり恩返しという行動は取らざるを得なかったと言いますか、それは私のこれまでの信条でありますので、本当に、今は、本当に昨日の今日でありますので、御理解くださいと言っても色々な方もいらっしゃるかもしれませんが、でも、何とか御理解をいただきたいなというふうに思っているところです。

#### 記者

あともう1点すいません。冒頭にお話された安倍元総理が銃撃された件なんですけれども、今回、日本の警備のあり方について色々意見が今戦わされていると思うのですけれども、なかなかたくさんの方に触れ合いたいという政治家の方々の思いと、警備する上ではそれはかなりリスクであるという、その難しい、二律背反する問題があると思うのですけれども、知事はまさに政治家としてですね、有権者の意見を聞くことになり注力されてきたと思いますが、その難しさみたいのところ、何か思われるところがありましたら教えてください。

#### 知事

そうですね、まさに選挙期間中の遊説の最中に背後からというようなことで、本当に卑劣な行為だと憤りを感じているところでもあります。ただ、やはり警備というのは非常にこれから大きなポイントになっていくのではないかなというふうにも思ったところです。やはり、政治家というのは有権者の皆様との信頼関係の中で遊説というようなことをすると思いますので、たくさんの方が集まった中でですね、全方位を制限するということとは、それはなかなか難しいと思います。ですが、やはり今回は背後からというのは、本当に虚を衝かれたと言いますか、背後というのはやはり、しっかり守っていただいたほうがいいだろうなと思っております。これからの警備ということでは、こういうことが起こらないように、その暴挙を未然に防げるようなことをですね、しっかり実施していただきたいと思っておりますし、また、どうしてこのような犯行に及んだかというようなことも少しずつ解明されてきているようでもありますけれども、しっかりと解明をしていただいて、今後そういったことが起こらないような、やはり様々な社会環境整備ということですね、行うべきだ、行っていかなくちゃいけないんじゃないかなというふうに思います。

やっぱりアメリカでの銃乱射事件ですとか、ウクライナ侵攻ですとか、北朝鮮のミサイル発射であったり、いろんなことが起きて、よその国の蛮行だというふうに見ていたわけなんですけれども、我が国で、自分の国でこういう事が起きたというのは本当にショックを受けました。全国民の皆さんが大きな衝撃を受けたのではないかなというふうに思っています。

本当に民主主義国家というものがですね、大切なものでありますので、こういった暴挙

を未然に防ぐというようなことについて、やはりしっかり検証して今後に備えていくべきだというふうに思っているところです。

記者

その上で、二項背反するような話で、この事件を受けて、どうしてもやっぱり有権者との触れ合いというものを制限せざるを得ないというふうにお考えなのか、それともやっぱり有権者を信頼して、全くこれまでと（同じと）はいかないとは思いますが、やっぱり触れ合いのほうを大事にされるべきか、その辺の何か知事の御意見としてはありますか。

知事

そうですね。やっぱり私は現場主義でありますので、県民の皆様や有権者の皆様、県民の皆様との触れ合いというのは原点だと思っています。それを無くすことはできないと思います。やっぱり触れ合うことで様々なお声をお聞きし、そしてそれを反映させる、対話をするというのはずっと最初から、当初から大切な基本姿勢としてこれまでも踏襲してきましたので、それをやっぱり無くすことはできないなという思いであります。

ですから、警備というのでしょうか、信頼関係を持って政治家は市民の皆さんと触れ合うということ、それが使命だと思っておりますので、暴挙が起こらないようなシステムと言うのでしょうか、環境と言うのでしょうか、そういったことをしっかりとですね、確立していただきたいなというふうに思っています。

記者

はい、ありがとうございます。

記者

すいません、山形新聞の田中です。

まず代表質問に関連して、参議院選挙のことを教えていただければと思います。縷々質問とお答えがありましたけども、7月2日という日にちを選ばれて、恩返しという方法で事務所を訪問されたと、この日にちと激励のあり方、方法ですね、これを選択されたというお気持ちをまずはお聞かせいただければと思います。

知事

そうですね、ずっと、恩返しは1回はしなければという思いがあったので、どういうふうな形でいつ何をするかというようなことは熟慮を重ねてきました。そしてやはり自分の様々な公務であるとかいろんなことを考え、また、相手もあることでありますので、相手の日程というようなこともですね、ちょっと聞いたりしてもらいながら、そしてその日にちに



なったんだというふうに記憶をしております。やはり1回は恩返しをしなければというような思いで参りました。

記者

ありがとうございます。それで、昨日投開票が行われて、舟山康江さんが3度目の当選を果たされたわけですが、知事が応援していると言った方の当選に際してですね、何か舟山さんとお話になったりしたことというのはございますか。祝意を伝えられたのですか。

知事

実は今日ですね、午前中のお昼に近い時間に御挨拶に見えられました。そこで祝意を伝えたいところでもあります。そして県民の皆さんの声をですね、しっかりと国会に、中央に届けますというふうにはりきっておられましたので、私からは「御活躍ください」というふうに申し上げます。

記者

ありがとうございます。更に自民党との関係ですね、2月定例会でも知事の提案理由の説明の中に、自民党の県選出国會議員の方との連携、県政課題に向けた連携の言及などもありました。

今後、選挙はどうしても敵味方に分かれたりするものではありませんけども、知事もよくおっしゃられているノーサイドという言葉もあります。今後県政課題に向けてですね、県選出国會議員、とりわけ自民党、政権与党とどのように県政課題に向けて連携・協力を図っていくかをお考えなのかを教えてください。

知事

はい。本当に県政には様々な課題があります。一つひとつ申し上げることはできませんけれども、県選出の國會議員の先生方、与党の先生方とのですね、連携は本当に重要であるというふうに思っております。これまでも何か要望に行く時でありましたり、それから米沢トンネル(仮称)についてでありましたり、様々な御協力をお願いしたりもしてまいりました。

これからもですね、この選挙を乗り越えて、やはり県民の幸せ、県勢の発展というところでは目指すところはまったく同じだというふうに思っておりますので、しっかりそのところのためにですね、一致協力をして全力で県政に邁進していきたい、そのために御協力をこれからもお願いしていきたいというふうに思っているところです。

記者

ありがとうございます。その選挙で、山形県の投票率というのが61.87%ということになりました。3年前の2019年に比べて1.13ポイントプラスになったわけですが、この投票

率について、知事、まずは何か、前回よりも上がったということに関して、もしくは、私もちょっとまだ定かでないのですけど、総務省が**52.05%**、全国の数字を出していますけども、その投票率について知事の見解、お考えを教えてくださいと思います。

知事

はい、わかりました。本当に県民の皆さんがですね、しっかり投票行動を取ってくださったなと思っています。

今般の参議院議員選挙における山形県選挙区の投票率は、今記者さんがおっしゃったけれども、**61.87%**となりました。前回、令和元年と比べて**1.13**ポイント上昇してございます。

この結果、国政選挙では、平成**29**年の衆議院議員選挙以降、**4**回連続で全国第**1**位となりました。ちなみにですね、山形県が第**1**位で、第**2**位は長野県の**57.70%**、第**3**位がなんと東京都**56.55%**。昨日、急激に投票率が上がったそうであります。

今回の選挙に当たりましては、県、市町村の選挙管理委員会や山形県明るい選挙推進協議会が中心となって、家族ぐるみの投票や子連れ投票を呼び掛けてきました。そのほか、県内の高校や大学の協力もいただきながら、若い方の投票率向上にも取り組んできたものと承知をしております。

また、期日前投票所につきましても、大学や商業施設等を含む過去最多の**66**か所に設置されました。利便性が向上したということになります。それで全有権者の約**4**分の**1**、**24.0%**に当たる**215,854**人が利用されたということでもあります。

選挙というのは有権者が政治に参加する重要な機会であります。まさに民主主義の根幹でありますので、今後の選挙におきましても有権者の皆様お一人おひとりが選挙は自分の未来を決めるものという意識を持って、大事な一票をしっかりと行使していただきたいというふうに思っているところです。

記者

ありがとうございます。4回連続国政で山形が**1**位だということを今知事からお話いただきましたけども、知事は以前、その全国**1**位を続けている理由についてですね、山形県民のそのまじめさ、堅実性みたいなものが背景にあるのではないかなというふうなお話もありました。改めて国政選挙で4回連続投票率全国トップになったと、この背景、要因をどのように推察されますか。

知事

はい。まずはやはり、山形県民の皆さんの誠実さといいますかその真面目さ、謹厳実直と言われておりますけれども、それが投票率となって表れているのではないかなというふうに私は考えているところであります。

また、選挙管理委員会とかですね、あと高校や大学、そういったところでも投票行動をし

っかり取りやすいようにと言いますか、意識啓発というようなことにもしっかり取り組んでくださったのかなというふうに思っております。

やはりお一人おひとりのその権利をしっかり行使する、そして御自分の考えをですね、政治、この社会に反映させるということは本当に大事な行動でありますので、今後も県民の皆様にはしっかりと投票行動を取っていただければなと思っております。まずもって今回もしっかりと投票行動を取っていただき、県民の皆様には感謝を申し上げたいと思います。大変ありがとうございました。

記者

ありがとうございます。最後に1点、宮城県川崎町の風力発電施設になります。

先ほどもありました。今日の午前中、山形市長がですね、知事に山形市としての意見を述べられました。その際、最後に知事がですね、明確にはお答えにはなっていないですけども、しっかりと足並みを揃えることになると思うと最後にお話になりました。そのメッセージというのは、やっぱり山形市の考えを最大限尊重して、県としての意見を事業者に伝えていくということになるということによろしいのでしょうか。

知事

そうですね、ちょっと一言前のめりになったかなと思っておりますけれども、でも本当に、やはり地元の皆様の思い、そして考え、またその状況ということに対するですね、何と申すのでしょうか、分析でありましたり、そういったことはしっかりと尊重しなければならないというふうに思っております。

ですから、山形市民の代表である山形市長さんが今日御意見をお持ちくださいましたので、あとは専門家の皆様の御意見も合わせて、しっかりとそれを踏まえて県として関西電力にお伝えしていきたいというふうに思っております。